

アルコールと健康に関する学術情報集 (II) 編集者より

滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門教授 上島 弘嗣

アルコール飲用と精神・身体への影響に関する研究に関しては、その課題は古くても、常に新しい知見と視点が、時代の変遷とともに求められ、かつ生まれている。アルコール依存症のメカニズムは依然として解明されておらず、医学的観点のみならず、精神的、社会的観点からの研究も必要である。また、わが国では、未成年の飲酒問題が年々その対策における重要性を増しており、その実態を、年次推移を踏まえて捉える必要性のみならず、そのことにはいかに対処するかの研究も必要である。また、モンゴロイドの特徴として、アルコールを迅速に代謝できない人が約 50%いるが、そのアルコール代謝酵素に関連する遺伝子多型と飲酒量の交互作用による発がん性の関連に関する研究も注目を浴びている。

本書の出版は第 2 回目となるが、アルコールに関する疫学研究からアルコール代謝・薬理学における研究、精神医学領域における研究、等にわたる広範な研究成果を総覧し、疫学、代謝、飲酒行動の 3 分野に分類して、その要約を文献とともに掲載した。論文の検索は PubMed をはじめとして、できる限り多くのアルコール関連研究が選択されるようにキーワードを設定して検索した。選択された論文について、一つひとつその論文が本書への掲載に必要か否かを判断した。

ここに、関係者の多大の努力に感謝いたしますとともに、本書がアルコール問題に興味ある関係者の方々のお役に立てばと願っています。

上島弘嗣

1971 年金沢大学医学部卒、大阪府立成人病センター集団検診部、大阪大学医学部公衆衛生学教室助手、米国ノースウェスタン大学医学部地域保健・予防医学講座研究員、国立循環器病センター医長を経て、1989 年より現職。医学博士、FFPH。主たる研究領域は循環器疾患の疫学・予防医学。日循協・日本疫学会・日本高血圧学会・日本アルコール薬物医学会、等の理事を務める。健康日本 21 計画策定・企画検討委員会委員、現在、NIPPON DATA、国際共同研究 INTERMAP、潜在性動脈硬化症日米比較疫学研究、等を推進。